

香り、食感。秋の実り満喫

平成19年産新米試食会

新米試食会（市農業振興協議会主催）が10月10日、宝江ふれあいセンターで行われ、農業関係者ら約60人が参加しました。

試食に出された米は、JAみやぎ登米管内で生産されたササニシキ、ひとめぼれ、まなむすめの環境保全米Cタイプ。秋田県大潟村産あきたこまち、新潟県南魚沼産コシヒカリの5種類。バイオマスエネルギーの可能性を検討する



5種類の新米と特別出展米にはしが進んだ試食会

ために試験栽培された、多収系統の品種「夢あおぼ」も特別出展されました。

また、地元の野菜を使った煮物やサラダのほか、米山産のパッションフルーツも振る舞われ、参加者は地元食材の味を楽しみました。

布施市長は「今年も市民皆さんに、安心しておいしく食べてもらえる新米ができました。登米市は食材の宝庫。米価の下落が気になりますが、



思い思いに美味しいと思った米をおかわりしました

おいしい米の食味を感じてほしい」とあいさつしました。

参加者には、事前に品種は伝えておらず、食後においていと思つた米に順番を付けるアンケートも実施。全5種類のうち、1番人気はササニシキ、3番目にひとめぼれと、市内産の米をおいしいと答えた人が多い結果となりました。

会場には、稲穂も展示され、香りや食感など秋の実りを満喫できた一日となりました。



稲穂の実の入りを確認する参加者

第1回市民文化祭ステージ発表の部（市文化協会主催）が10月13、14日の2日間、登米祝祭劇場で開催されました。

この催しは、春に行われた展示発表の部に引き続いて開催されたもので、同協会の会



文化協会による「労作唄で綴るとめ市の四季」

華々しい踊りや演奏の祭典

第1回市民文化祭



登米春嵐太鼓の「さくら吹雪」

員や市内の児童生徒ら47団体500人が出演。入場者は2日間で950人に上りました。

初日は、よさこいサークル、いしこし会館による、よさこい踊りでオープニング。県立迫養護学校の創作太鼓の演奏や、善王寺小こども民謡クラブの民謡など11演目が披露されました。

また、2日目は同協会に所属している35団体が舞踊や民俗芸能、合唱、ダンスなど25演目を披露。会場に詰め掛けた満員の観客を沸かせていました。

訪れた皆さんは「市内各地域でそれぞれ活躍している団体の踊りや演奏が一度に見られて感動した。来年もぜひ見に来たい」と話していました。

歩行者の立場で道路を点検

秋の交通安全総点検

歩行者の立場で道路を歩き、交通環境の現状把握や問題点を確認し合う「交通安全総点検」市、県、国土交通省主催）が10月19日、JAみやぎ登米豊里支店とその周辺道路で行われました。



点検結果を取りまとめ今後の改善策を協議しました

点検には、中学生や老人クラブ・交通安全団体員、学校・道路占用户関係者ら約80人が参加。2つのグループに分かれて、豊里地区の中心部を約1きずつ歩き、歩道の段差や破損などを確認する路線点検と、標識や横断歩道を点検する箇所点検を行いました。

調査では普段、車や自転車で行く道でも実際に歩いてみると、歩道が急に狭くなったり段差があったりして、歩行者には歩きにくい場所があることを確認。段差がある所では、実際に車いすや自転車に乗って点検も行いました。

その後、豊里支店に戻りグループミーティングで点検結果を取りまとめました。



小学生を対象とした「ニュースポーツ・スタンラリー」のキンポール

スポーツに関心を深めてもらい、参加者の交流を目的とした、第2回登米市スポーツまつり（同実行委員会主催）が10月21日、中田総合体育館とその周辺体育施設で開催されました。

幼稚園児とその保護者を対象とした「親子ふれあいコーナー」、大人が対象の「体力運動能力調査」「さわやかウオーキング教室」、中高年のための「介護予防教室」などが行われました。

小学生対象の「ニュースポーツ・スタンラリー」では、キンポール、ドッジボール、ラグビー・ユニカール・スポーツチャンバラなどの8種目を体育指導員らが指導。子どもたちは、班ごとに分かれて、それぞれ3種類のニュースポーツを楽しみました。



リズム体操「アイターゲット」を実演する親子

また、「体力運動能力調査」では、成年と高齢者に分かれ、握力や反復横跳びなどを測定。日ごろ運動しない人たちにはきつかったようですが、気持ちのよい汗を流していました。

そのほか、「親子ふれあいコーナー」では、日本レクリエーション協会の指導で、元氣アップ・エクササイズとリズム体操を実演。保護者向けのセミナーも実施され、子どもの体力の現状や生活習慣の重要性などを学びました。

親子で楽しく気持ち良く市スポーツまつり